

## 踏み跡 <My Mountains>

千葉

千葉県で一番低い山(稲荷山に再挑戦)

No.328

千葉県で一番高い山は「愛宕山(海拔 408m)」、房総半島のほぼ中央部にあり、自衛隊の基地の中に山頂がある。千葉県で一番低い山は「稲荷山(海拔 16m)」とする情報が多い。2012年の夏、この山の登頂を目指してでかけてみた。

この山(稲荷山古墳)は、富津市の住宅地のはずれにある水田に囲まれた小山だった。水が張られた田圃、古墳の周囲の濠のあとは湿地帯、夏場には山裾に近付くこともできないので、この時には存在を確認しただけで帰って来た。再挑戦は冬場に限るということにして・・・。

平成 26 年 1 月 23 日

10 時前に車で自宅を出発。穴川 IC から京葉道路・館山自動車道と走り、11 時前に一年半ぶりの古墳の町青堀駅に到着。傍らの 25,000 分の一の地図とカーナビゲーションを頼りに富津岬に向かう道を南西へと進む。一年半前の旅の記憶を紐解きながら路地を曲がって進んで行くと、潤れた田圃の向こうに稲荷山が現れた。緑いっぱいの水田、古墳の周りの湿田は枯れ草色の乾いた光景に変わって、常緑樹に包まれた稲荷山が浮くように建っているのが印象的だ。(右写真:稲荷山南端からの眺め)

住宅地の一角に車を止めさせていただいて歩行開始。

細い水路に沿って住宅街を左手に見ながら進むと、水田の向こう側に藪が少々切り開かれたようになっている場所を発見。水田を横切って古墳の外堀跡と思われる湿田に踏み入って見ると、意外なことに湿田は乾いて歩きやすくなっていた。切り開きを慎重に登って行くと枯れ葉に覆われた前方と後円の暗部に躍り出た。稜線を隈なく探索して見たが、山名を記すような標識は何もない。

ここが最高点だろうと思われる場所を自分で決めて、「登頂成功!」ということにした。国土地理院の地形図によれば、海拔 16 m ということになっている。(右写真:稲荷山山頂はここか?)

方角を見失わないように注意深く元の足跡をたどるようにして水田に戻った。

稲荷山古墳全体を眺めるために、西側から北を回って東側まで半周してから駐車場所に戻った。



前回の旅の時にはこの周辺に林立する古墳を巡る散歩を試みたが、今回は別なテーマを用意した。

国土地理院の地形図(1:25,000 富津)を見ていると、このあたりの地名に魅かれてくる。

内房線の線路際に「古井戸」、そしてその東側に「堰端」、その南に「飛付」、その東に「雲宮」、さらに南へ進むと「稲際」、「南砂除」、気にして見たらきりが無いほどに意味あり気な地名が続いている。

手始めに古井戸と堰端の集落を丹念に歩いて見たが、井戸もなければ水路もなかった。

南砂除の集落から東京湾方面を眺めて見たら、かすかなイメージネーションが湧きでてきた。海岸線から直線距離で 1.5Km ほど、平坦な農地だけが広がる風景。海からの風が運んでくる砂

## 踏 み 跡 <My Mountains>

粒・・・なるほど。

地図を片手に何ヵ所かのポイントを選んで散策しているうちに空腹を感じてきたので、午前の部は終了。  
海拔 66.4mの神明山の麓にある富津市役所に入り、売店でパンを買って敷地内の日だまりで遠くに見える水平線をおかずにして昼食と休憩。

午後の部は、弁天山古墳を見学した後海岸線の集落を散歩しながら帰宅の途についた。

以上

<稲荷山古墳のデータ>

墳丘長=106m、後円部径=47m、前方部幅=73m、前方部高さ=6.6m、後円部高さ=6m、  
盾型二重周溝を含めた全長=202m、埋蔵施設=横穴式石室、出土品=円筒埴輪・形象埴輪、  
六世紀後半の古墳としては東日本最大。